

アフガニスタン医療復興支援活動

看護師 苦米地則子

派遣地域:アフガニスタン、タロカン

派遣期間:2003年9月～2004年6月

2003年9月11日にアフガニスタンに派遣されて、タロカン入りしてから早くも3ヶ月が過ぎました。こちらタロカンは、山は雪化粧、気温も冬らしく朝晩の吐く息が白く、寒さを実感している毎日です。生活や仕事にもなれて、自分のペースを少しづつつかみ、プロジェクト全体を見る余裕が少し出てきたところです。



(冬のアフガニスタン。左から7番目、茶色い布を巻いているのが著者)

20年以上続いた戦争を体験したアフガンの方々の思いは計り知れず、共に仕事をする難しさを痛切に感じています。とくに 女性の立場からのアプローチは、更なる困難をきわめます。最初は彼らとの関係作りからはじめ、今はその手応えを感じているところです。あせらず時間をかけることも時には大切です。



(病院でスタッフと)



周辺住民には電気、水道は整備されていませんので、病院は自家発電、自家給水です。時折の停電、断水時には、日本の手術室での日々を懐かしく思い出すこともあります。厳しい生活環境でのタロカンですが、困ることはありません。プロジェクトマネージャーが1人、看護師3人、管理要員1人、建設要員1人のチームで過ごしています。遠く離れたアフガニスタンのこの地域でもインターネットが使えたり、衛星電話があったりと、ICRC(赤十字国際委員会)の機動力の凄さに驚くばかりです。

最後にイラクでの ICRC 事務所爆破事件を聞くにつけ、ここアフガニスタンも同様に危機管理が最優先であることを再認識しています。